

項目		説明
試料・情報の利用目的及び利用方法	研究課題名	急性骨髄性白血病における移植前骨髄細胞密度の臨床的意義の検討
	研究対象者	急性骨髄性白血病と診断された患者さんのうち、2020 年 1 月から 2025 年 3 月の間に神奈川県立がんセンターで同種移植治療を受けられた方
	研究目的	先行研究では、急性骨髄性白血病において前処置前の化学療法による介入で骨髄有核細胞数(NCC)低値を誘導することが同種移植後の良好な成績に寄与することが示唆されています。また急性リンパ性白血病では移植前 NCC 高値が予後不良であることが示唆されています。急性骨髄性白血病などの造血器腫瘍において、同種移植前の NCC つまり骨髄細胞密度が、移植後成績と関連すると考えられます。そこで、本研究では骨髄細胞密度(cellularity)に着目し急性骨髄性白血病における移植前 cellularity と移植成績の関連を後方視的に検討します。
	研究方法	神奈川県立がんセンターのみで実施される診療録および診療科データベースを用いた後方視的データベース研究。診療録やデータベースから、患者データを収集し、統計学的手法により骨髄細胞密度と急性骨髄性白血病の病態との関連性や、移植後成績との関連性を検討します。
	個人情報保護	対象となる患者さんの診療情報には個人情報が含まれますが、氏名や住所などの情報を削り、容易に個人を特定できないように研究用の番号（識別コード）で管理します。個人と識別コードを照合できるようにする対応表を作成しますが、パスワードロックや鍵をかけて厳重に保管し、院外へ提供することはありません。
	研究期間	西 暦 2 0 2 5 年 9 月 1 6 日 ～ 西 暦 2 0 2 8 年 3 月 3 1 日
	利用又は提供を開始する時期	[✓]総長が研究実施を許可した日 [] 西暦 年 月 日頃（研究の進捗によって前後いたします）
利用する試料・情報の項目(チェック[X]が入った項目を利用します)	[] 試料:	[] 血漿、[] 血清、[] 全血、[] 末梢血から抽出した DNA、 [] 病理検体(具体的に記載: _____)、 [] 尿、[] 糞便、[] 唾液、[] 胸水、[] 腹水、[] 脳脊髄液、 [] 毛髪、[] その他(具体的に記載: _____)
	[X] 情報:	[X] 診断名(臨床病期や分類、病理診断を含む)、[X] 年齢、[] 生年月日、[X] 性別、[X] 既往歴、 [X] 併存疾患、[X] 外来日・入院日・退院日、[X] 臨床検査値、[X] 放射線診断や超音波検査、内視鏡検査等の画像データ、[X] 臨床所見・経過（予後追跡データを含む）、[] ゲノムデータ、[X] 看護記録、[] その他(具体的に記載: _____)
試料・情報を利用する者の範囲	当センター	所属・氏名
	研究責任者	血液腫瘍内科 泉 陽彦
	共同研究機関および責任者	なし
	その他の機関	なし
試料・情報の利用停止および情報公開に関する窓口		神奈川県立がんセンター 血液腫瘍内科 泉 陽彦 045(520)2222(代表) 利用停止のお申し出は 2026 年 3 月 31 日までをお願いいたします ただし、お申し出いただいた時にすでにデータが固定され、研究成果が論文などで公表されていた場合には、患者さんのデータを廃棄できない場合があります